

目次

- (一面)
  - ・国連「世界人権宣言」採択70周年 事務局
  - ・第2回団体別合同研修会 三澤雅俊
  - ・視点 意味ある学び 桑野光枝
- (二面)
  - ・生涯学習プラザの紹介 播磨美行
  - ・未来を身近にかんがえよう! 和田季子
  - ・武庫地区の子ども会の紹介 濱田格子

# 武庫しののめ

武庫地区人権啓発推進委員会

尼崎市南武庫之荘 11丁目6番15号

尼崎市立地域総合センター南武庫之荘

電話・FAX 6438-5875

平成30年12月4日〜10日

## 国連「世界人権宣言」採択70周年

### 「人権文化の息づくまち」を目指し、第70回人権週間に伴う様々な活動をおこないました。

12月4日から10日までの人権週間には、毎年、全国各地で啓発活動が展開されています。特に平成30年は、国連での「世界人権宣言」採択から70周年の年でした。武庫地区でも「人権文化の息づくまち」を目指し、次のような啓発活動を実施しました。

#### ◆街頭啓発活動

- ・日程 12月3日(月)
- ・場所 阪急武庫之荘駅周辺
- ・人権啓発チラシ・グッズの配布 (参加者49名)



街頭活動に先立ち、11月21日(水)に人権啓発チラシ・グッズの袋詰め作業を行いました。作業終了後、DVD『障害者は困っています!』を鑑賞し、身体に障がいを持つ方々が日々の生活で困っている点や、障がい者への適切な接し方について学びました(参加者53名)。

#### ◆人権啓発パネルの展示、横断幕のぼりの掲示

- ・日程 11月28日(水)〜12月10日(月)
- ・場所 阪急武庫之荘駅周辺

#### ◆武庫地区人権問題講演会

- ・日程 12月6日(木)
- ・場所 武庫地区会館 3階ホール
- ・講師 三澤雅俊さん 前田裕司さん 千木良昌彦さん 和田季子さん



講演では、子どもに対する虐待と社会への提起について、これまで関わってこられた中学校の生徒指導や、むこっ子ロードの取り組みについて、また近年問題になっている「こ(孤、個)食」と子ども食堂について、お話しいただきました(参加者119名)。

講義では、子どもに対する虐待と社会への提起について、これまで関わってこられた中学校の生徒指導や、むこっ子ロードの取り組みについて、また近年問題になっている「こ(孤、個)食」と子ども食堂について、お話しいただきました(参加者119名)。

## 第2回団体別合同研修会

去る2月15日(金)に武庫人権推進主催の第2回団体別合同研修会が武庫支所で開催されました。

今回は、講師に神戸学院大学人文学部講師の金益見(きむつぎよん)さんをお招きし、「多文化共生社会と在日コリアンの生き方」というテーマで、ご講演いただきました。まず、多文化共生とは何?

という問いかけには、私は「巻きずしのようなもの」と答えている。韓国にも巻きずしのようなものがあり、具材や作り方の違いはあるが、どっちもおいしい。「違うけど、どっちもおいしいやん」ということで、「巻きずし大作戦」と私は言っている。と説明されました。ただ、理解されにくいので、中・高・大学生を前に話すときは、在日コリアンの人生を取材し、マンガにしている。わかりやすく工夫をされている。研修会当日も、お二人の在日の有名人へのインタビューをマンガと共に紹介されていました。お二人とも、本名で堂々と表舞台で生きることで、本名で活動しておられるそうです。

最近、書店では、「これを読むと韓国を嫌いになること間違いナシ!」というポップがあり、一角に「嫌韓」関係の本が山積みされています。自分の国なので、すごいショックを受け、67万部売れているというこ

となので、逆に67万人の味方を作ろうと取り組んでいるが、なかなか難しいとおっしゃっていました。ヘイトスピーチと共に、在日コリアンへの攻撃は、「ヘイトスピーチ解消法」ができたにもかかわらず、ますますひどい状況になっていると感じます。しかし、「しんどいこともあるけど、共感したりする学生や講演を聞いていただいた皆さんがいる」ということを思いながら、これから活動していきたい」という言葉が印象に残りました。(三澤 雅俊)

## 視点



### 意味ある学び

世の中には、正解が一つではない課題や問題が山ほどある。人権に関すること、食の問題や領土問題等、考えるべきことが日常化してきて、挙に暇がない。だからこそ、「学ぶこと」が、重要視される。

学校等で実施するテスト問題で、解答が複数ある時、出題側は丸つけに困る。そのため、問題にじっくり出題者は頭を悩ます。知識量だけでは意味がないことを知っているからである。

そもそも「学び」とは何なのか。それは、課題に対して、想像し、推測し、想像力を働かせて実証していくもの。体験を通して試行錯誤すること。このような過程を経るからこそ、達成感や面白さを味わい、改善に向き合うことができる。まさに体験を通して学びの成果である。

昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学名誉教授の本庶佑氏は、各取材の場で小中学生に「『知りたい』『不思議だ』『本当にこれなのか』」と思わせ、問う心を大切にしている。本庶氏は、授業、放線線、手術に続く第四のがん治療手段である免疫治療という新境地を切り開いた。

これは、免疫治療薬「オプジーポ」のもとになるタンパク質「PD-1」を発見した画期的な研究である。その研究者はまた、「教科書や研究雑誌に書かれていることを鵜呑みにするな」「自分の目で見て納得するまで諦めないことが大切」とも語る。「意味ある学び」の連続がここにある。

答えはすぐでないかもしれない。だからこそ、日常化する課題や問題に関心を寄せ真摯に向き合い続けることが大切である。そして、学ぶ意味がそこにある。

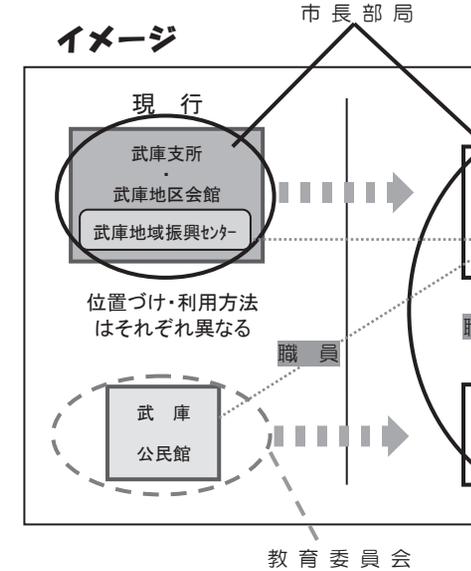
尼崎市立武庫北小学校 校長 桑野 光枝

# 生涯学習プラザの紹介 地域振興体制の再構築の取組について

平成31年4月、武庫支所・武庫地区会館及び武庫公民館は、それぞれ「武庫西生涯学習プラザ」、「武庫東生涯学習プラザ」に名称を変更いたします。

併せまして、武庫地域振興センターと武庫公民館は、武庫西生涯学習プラザ内の「武庫地域振興センター」に組織を統合し、市職員が一体で地域の課題に取り組み、地域からの学びや活動等に関する相談に柔軟に対応できるように体制を整えてまいります。

「生涯学習プラザ」は、学びと活動を支えるための施設として、地域の皆様がこれまで行われてきた活動を変わずサポートし、より利用しやすい施設を目指してまいります。施設の管理・利用受付は市から委託を受けた指定管理者が行うこととなります。



## 未来を身近にかんがえよう！

この度武庫地区のPTCA活動として「自分達で地域づくりをしよう！」をコンセプトに作られたカードゲーム『アマガサキ・トウ・ザ・フューチャーII』を開催しました。



↑おたからカード

ゲームの進行には、尼崎を拠点に活動を行うまちづくりコンサルタントの若狭健作さんを迎へ、尼崎の未来を考えました。カードは尼崎の地域資源「尼崎城」「武庫川」といったものから「尼いも」「尼のおかん」「坂がな」「おたからカード」と、市民の悩みや不安を記した「きいてカード(55枚)」の二種類です。きいてカードには実際の市民の意見が寄せられ、それを手持ちのおたからカード(7枚)を使っ



ゲームの進行役は「尼を愛する」若狭さん

て、解決するストーリーを考えるゲームです。今回は「毎日散歩していた一人暮らしのおじいちゃんを最近見かけない...。めっちゃ気になる。中(3(15))という優しいきいてカードの意見に、「『生徒会』が『尼のおかん』にお願いして、おかんが『洋菓子』を持っておじちゃんの家に行つて見守り活動をする」という3枚のカードを



ゲームを通して自然と笑顔が生まれます

使った心温まるストーリーも生まれました。皆さんも遊び心も交えながら、身近な街のこと、自分ができることを考えてみませんか。アマガサキ・トウ・ザ・フューチャーIIに関するお問い合わせは電話...06-4950-0387(生涯、学習！推進課)

(和田 季子)

## 武庫地区の子ども会の紹介 武庫地区の子ども会活動

子どもたちが健やかに育つには、遊びを通じた楽しい体験が必要です。子ども会はその活動を通じて、近所の子供たちと交流し、自治会(町会)が増えているため、「子ども会活動に参加したい子なら、誰でも参加できる」ようにしよう。武庫地区には6つの小学校区にそれぞれ子ども会を作っています。活動は地区全体で行っており、春は遠足、夏はカヌー大



会では武庫地区の大西心々美さんと幡野瑛飛さんが阪神地区大会まで進みました！子ども会の役員という子育て中の親が行うものでしたが、現在は子育てからは手が離れたちよつと先輩世代が担っています。元気が子どもたちとの関わりは大変ですが、役員の子どもたちが大学生・社会人になっても手伝ってくれたり、夫やその友人まで巻き込んで楽しく活動しています。私はよその子の成長を喜び合える、お人好しで、ハートの温かい仲間と出会えたことが、子ども会活動の一番のご褒美と感じています。



武庫地区子ども会連絡協議会会長 濱田 格子